

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101335		
法人名	有限会社 大垣ケアサービス		
事業所名	グループホームあおぞら		
所在地	岐阜県大垣市林町8-69		
自己評価作成日	平成30年7月9日	評価結果市町村受理日	平成30年9月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2172101335-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成30年7月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「いつまでもその人らしさを大切に」を運営理念に挙げています。ご利用者様ひとり1人の個性、生活習慣を理解し「その人らしさを失わない生活が送れるようケアに取り組んでいます。また、地域密着型のサービスとして、地域の方に認知症への理解を深めて頂けるよう取り組みをしました。今年も引き続き地域との関わりが持てるよう継続していきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、利用者が、日々ゆとりを持って、のびのびと穏やかに生活できる場であり、それぞれの「家」であるとしている。常に、本人・家族の思いに寄り添いながら支援し、運営を行っている。また、地域におけるケアの拠点として、認知症についての学習会を地域で開催するなど、地域密着型サービスの機能を果たしている。代表、管理者、職員間で様々な情報を共有し、明るく働きやすい職場環境作りにも取り組み、風通しの良い関係が確立されている。職員の定着率が高いことから、利用者の安心感と、より良い利用者サービスにつながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつまでもそのひとらしさを大切に」を理念として掲げています。日々の業務の中で常に意識が出来るよう話し合いの場を設け、発言しやすい環境づくりを心掛けています。	理念である「いつまでもそのひとらしさを大切に」を掲げ、職員全員が、利用者一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、職員会議や申し送りで情報を共有し、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度は自治会での講話を開催し交流を深めました。地域のサロンへの参加や、地域の防災訓練、地域中学の職場体験としての場の提供、子供110番の家など、地域の一員として交流しています。	自治会に加入し、地域の行事や防災訓練に参加するなど、地域とのつきあいを大切にしている。また、地元住民も気軽に訪れ、福祉相談に対応したり、認知症について、住民参加の研修会を開くなど、相互の交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度は自治会のいきいきサロンにて認知症についての講話を計画、開催しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、ホームの状況や活動の報告、災害時、緊急時の対策を話し合っています。また日頃頂いているご意見に対する取り組みの報告の場として、また意見を頂く場として会議を活用しています。	隔月に開催し、利用者・家族・行政が参加している。利用者の現状や行事について報告し、今後の取り組みについて意見交換をしている。地域包括支援センターからは、いきいきサロンや「中川ふれあい事業」への参加の呼びかけがあり、計画中である。	運営推進会議のメンバーに、地域代表など複数の参加を依頼し、地域密着型サービスの意義をふまえた取り組みに期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政主催の研修会、連絡会に参加しています。また市町村担当者へ、介護保険制度やケアに関する相談、報告を定期的に行っています。	行政とは日常的に情報交換し、協力関係を築いている。行政主催のケアマネジャー会議、研修会等に積極的に参加している。困難事例、法律改正など、その都度助言を受け、ケアサービスにつなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行うことがないようケアに取り組んでいます。また月一回のホーム会議において身体拘束は原則禁止であることを確認しています。やむを得ず行わなければならない場合は、本人、家族への説明同意を得た上で必要最低限の拘束であること、早期に拘束解除に向けた取り組みの検討会を行っています。	身体拘束ゼロの指針を基に研修を重ね、廃止に向けて指針を整備している。緊急やむを得ず拘束を行う場合は、その理由、対応方法及び時間、利用者の心身状態等を記録している。3か月に1回以上の委員会を開いて「指針」の周知徹底を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会にスタッフが参加しています。研修会で学んだことを会議やレポートなどで報告し、虐待防止に努めています。		

岐阜県 グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料提供や勉強会のテーマで取り上げるなどし、スタッフが制度を理解できるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、解約時には契約内容や重要事項説明書の内容を丁寧にお伝えしています。説明時には不明な点や不安な点がないよう確認をしながら行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置やご家族様が要望や意見を管理者やスタッフに伝える事が出来る関係が築けるよう努めています。また運営推進会議において、意見を頂いたり、ご意見へ対応も報告しています。	訪問時の家族の言葉に耳を傾け、思いに寄り添う気持ちで意見や要望を聞き、把握に努めている。運営推進会議で出された要望により、スロープを設置したり、利用者の重度化についても話し合い、理解を深めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の会議や日頃からコミュニケーションをとることで意見を吸い上げ運営に反映させています。	管理者や代表者は、日常的に気づいたことを職員とその都度話し合い、改善に繋げている。また、事業所全体で利用者の状態や情報を把握し、共有しながら、職員が働きやすい職場環境づくりにも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が長く働けるようある程度の希望に沿った勤務時間や勤務日数で働いています。処遇改善加算の説明をし勤務状況や実績、努力が反映され向上心が持てるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	薬剤師による勉強会の開催や職員ほぼ全員が何らかの外部の研修を受けられるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の定例会や研修会、ケアマネージャーの情報交換会に参加しています。またグループ内の事業所間で連携をとりサービスの向上につなげています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談でご本人様やご家族様それぞれの困っている事や不安な事、思いに耳を傾けています。安心できる関係が築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の思いを受け止め、ご本人様のケアに活かせるよう、ご家族様との関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご要望のあったサービスの中から必要なサービスは迅速に提供し、外部のサービスが必要と思われる場合はご本人様、ご家族様と相談しながらサービス利用を勧めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が主体となる暮らしの中で職員が決して優位ならず、何気ない会話の中から、共感をしたりすることでなじみの関係を築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の不安や負担を理解しながら、共にご本人様を支えられるようご家族様との連絡をとるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで築いてこられた関係が継続されるよう出来る限り支援しています。なじみの店への外出をしたり、ホームへ気兼ねなく面会にお越しいただけるよう雰囲気づくり、関係作りに努めています。	知人、友人、家族の訪問時には、ゆっくり過ごしてもらえるよう雰囲気作りに努めている。また、利用者の希望の場所に同行し、馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に暮らすなかでお互いの関係を理解し、意思疎通の橋渡しなど温かい関係が築けるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後ご本人様が早く新しい環境に馴染めるように、またこれまでの支援が継続して行えるように相談や支援をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを打ち明けてもらえる関係性を作った上で一人ひとりに丁寧に時間をかけて傾聴します。困難な場合は共に過ごす日常生活の中での気づきをホーム会議などで話し合います。	入居前に利用者の意向を把握し、入居後も「何でも、話して下さい」と時間をかけて傾聴し、信頼関係を築き、利用者の思いを聞き出している。意思表示が困難な場合は、家族の協力を得て、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からこれまでの生活歴や生活環境、暮らしの希望を伺います。また入居前に利用されていた事業所から、本人の様子、状況などの情報も得ています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申送り、会議などで一人ひとりの現状をスタッフ全員が把握できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議や家族との話し合い、主治医、看護師、薬剤師への報告、相談などを通して総合的に連携をとり介護計画を作成しています。	家族の意見や要望は、訪問時に聞き、遠方の家族には文書で求めている。職員は、利用者一人ひとりの現状を把握し、申し送りや介護記録を基に、関係者が話し合いながら、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様子や気づきの申し送りを日々介護記録、申送りノート、チェック表を活用し行っています。スタッフ会議で情報の共有、見直しを図り、次のケアや会議計画に役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望を理解し、出来るかぎり対応できるよう、情報を集めたりなどして取り組んでいます。		

岐阜県 グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源に関する情報を集め、ボランティアの活用や、地域の喫茶店への外出をしています。地域包括支援事業への参加も予定しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族の意向に沿い決定している。協力医は月2回の往診があり、体調に応じて臨時的な往診もある。また歯科による医療、薬剤師による指導も受けています。	かかりつけ医については、契約時に事業所の方針を説明し、家族、利用者が決めている。協力医は、月2回往診し、緊急時には、迅速な連携体制がある。歯科、薬剤師等の訪問もあり、適切な医療や指導を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と介護スタッフ間の情報共有を行い、入居者の変化について、指示や助言を得られています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院と同時に医療機関への情報の提供を行っている。また定期的に面会を行うと共に病院関係者との情報交換や退院時の相談等もしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期の対応、体制について本人、家族に説明を行うと同時にご要望を伺っています。また状態に応じてその都度主治医、看護師も交えて話し合いを持ち、支援を行っています。	契約時に、重度化や終末期の対応について、方針を説明し同意を得ている。利用者の状態変化に速やかに対応できるよう、家族と関係者が話し合いをしている。看取り支援体制を整え、利用者、家族の思いを尊重し支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡方法や救急車の要請・対応について、どのスタッフも対応できるように定期的に訓練を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練は定期的に行い、避難場所や通報手順の確認をしています。また地域の防災訓練に参加し地域との協力体制が得られるようお願いをしています。	年2回夜間想定を含め、火災訓練を実施している。訓練後は、運営推進会議で報告し、助言を得ている。また、地域の防災訓練にも職員が参加し、災害時には、地域の協力を得られる体制づくりに取り組み、災害備蓄品については、定期的に点検を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で利用者の尊厳、プライバシーが守られるような声かけやケアの方法にスタッフ間で気を付けています。	利用者が好む呼び方を家族と相談し、対応をしている。ただし、馴れ合いから、誇りやプライバシーを損ねることのないよう職員同士で意識し合い、常に人格を尊重した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者の意向を伝えるだけの声かけをするのではなく、本人が自己決定できる声かけをするようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本となる一日の流れはあるが、入居者の体調や気持ちを尊重し、柔軟に対応できるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや衣類の汚れに気を付け、清潔に気持ち良く過ごして頂けるよう努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人ひとりの嗜好を把握し食事の準備を行っています。可能な利用者には職員と一緒に下ごしらえや片付けなど家事活動への参加もして頂いています。	対面式キッチン、食事準備の様子がわかり、利用者は食欲が刺激され、出来ることを手伝っている。季節の食材を多く利用し、3食手作りである。また、家族に献立表を送付し、意見を求めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量の管理を行っています。月一回の体重測定を実施し、医師、看護師への報告を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師、衛生士の指導のもと、スタッフが口腔ケアの重要性を理解し、毎食後の口腔ケアに取り組んでいます。		

岐阜県 グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っています。トイレに座る習慣を継続すること事でトイレでの排泄が維持できるように努めています。	職員は利用者の排泄パターンを把握し、声かけと誘導で排泄支援を行っている。トイレでの排泄が習慣になるよう支援することが、事業所の目標である。夜間は、紙パンツ、パッド等で個々の状態に適合した対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックシートの活用で排便リズムを把握しています。個々に応じた予防、支援を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週二回の入浴を基本としていますが、毎日入浴できる体制を整えています。気分が乗らない時には日程や時間を変更し、声かけにも工夫をしながら入浴を楽しめるよう支援しています。	入浴は週2回を基本としているが、希望者は毎日でも入浴可能としている。利用者の健康状態を考慮し、足浴、清拭等でも対応をしている。入浴は、利用者との個別対応のできる場でもあり、安心してゆっくりと入浴を楽しめるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調を考慮し、適度な休憩時間も取り入れながら、一日のリズムが整うよう支援しています。気持ち良く眠れるための環境も整うよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけの薬剤師の指導のもと、内服、外用薬の効果や副作用の確認を行っています。症状の変化はお互いに報告し合い、医師、薬剤師にもすぐに報告できる体制を整えています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の出来る事、したい事に合わせて家事活動やレク活動に参加して頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	喫茶店や散歩、買い物など本人の意向に沿った外出支援を行っています。懐かしい場所などにも足を延ばしています。	食材の買い出しや喫茶店、利用者個別の買い物などで、職員と共に出かけている。今年は特に猛暑や雨で外出の機会は少ないが、職員が同行し、希望の場所への外出支援をしている。また、年間行事が実施できるよう努力をしている。	日常的な外出支援ができるよう、職員間で話し合い、短時間でも戸外に出かける時間を捻出する工夫を期待する。

岐阜県 グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意向や家族との相談により、管理できる範囲内で本人自身がお金を所持しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の申出がある場合には、相手先に事前に説明し了解を得てたうえでお話しができるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的で温かい場所になるよう、生活感、季節感を採り入れ空間づくりをしています。穏やかで、ゆったりとした時間が過ごせるよう努めています。	1階にはウッドデッキがあり、日光浴やお茶を楽しんでいる。居間の窓越しに、周辺の景色や田畑を眺めながら、季節感を味わうことができる。また、利用者が作り上げた作品を掲示し、生活感のある「家」で、ゆっくりと寛げる共用の空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、食卓、席の位置など利用者と相談しながら配置をしています。共有空間が心地よいものとなるよう努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で過ごしているような居室作りを支援しています。本人、家族と相談しながら自宅で使っていた馴染みのものや、使い慣れたものを持参していただいています。	居室には介護用ベッド、洗面台、クローゼットが設置され、広く安全に暮らすことができる。クーラーの入れ替えが行われ、快適な温・湿度調整ができ、好みの小物を置き、写真を飾るなど、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者それぞれに、できること、援助があれば出来る事をスタッフ間で共有しています。居室内、共有スペースが安全に過ごせるよう環境を整えています。		